

杜の風

校長 森 薫

◎ 令和2年度の学芸発表会（10月27日）を中止とします。

コロナウイルス感染予防・感染拡大防止のため、社会教育総合センターでの全校生徒による学芸発表会を断念し、規模を縮小し本校体育館での学年毎の合唱コンクール及び吹奏楽部の演奏を考えてきましたが、以下の理由から校長の判断で、令和2年度の学芸発表会を中止とします。

理 由

I マスクをさせてまで、練習をさせたくはない

現状で授業を行う場合には、ウイルス感染防止のため、マスクの着用は欠かせない。合唱練習も同様である。今現在の感染状況を見ると、マスクの着用は2学期も続くと考える。

しかし自分自身が実際にマスクをして歌ってみて、非常に苦しく、マスクをさせてまで練習をさせたくはないと強く思った。

マスクをしてまで合唱の練習をさせるのは教育効果が薄く、現実的ではないと考えた。

生徒が、「マスクをして苦しい思いまでして、何で歌わなくてはならないのか？」と疑問に思うようであれば、本末転倒である。

息苦しさや酸素欠乏から来る症状が出る危険性もある。

マスクではなくフェイスシールドを着用したとしても、間違いなくマスクよりも飛沫及び空気感染の危険が高いと考える。

II ピアノ伴奏者、自由曲等が決定する前の判断

私自身、8月24日までに感染の状況を見て実施か中止かを判断すればよいと考えていたが、今の感染状況を見ると、再び感染拡大しており、8月24日の始業式まで感染の状況を見ていても感染収束の兆しは見えず、このまま準備を進めていても合唱練習や学芸発表会を中止とせざるをえない状況となる可能性が高いと判断した。

本格的な合唱練習は2学期からとなるが、ピアノ伴奏者は夏休みから練習を開始する。中止にするかもしれないという前提では、伴奏者に練習をお願いすることはできない。ならば、ピアノ伴奏者や各クラスの自由曲が決まる前に判断をしなくてはならない。

【中西先生は、生徒のみなさんのために既に課題曲自由曲の選定・録音等、準備を始めてくださっていました。中西先生、すみません。】

Ⅲ 当初実施すると判断したとき(6/30)とは、感染拡大の状況が変わってきた市内でも再び感染者が増えており、(7/15以降、7名感染)これからも感染者が増えることが予想される。(決して感染した人が悪いわけではありません)

本校に感染者が出て、休校となることの影響(授業がストップする・受検にも影響する・部活動が停止となる等)を考えると、感染のリスクの高い合唱練習は、2学期になってもすぐにはできないと判断した。

◎参考資料

【文部科学省 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル「学校の新しい生活様式」等より】

現在、群馬県は「新しい生活様式を踏まえた学校の行動基準」で言うとレベル1(感染拡大注意都道府県ではない)である。

レベル1の学習活動等については、換気の徹底・身体的距離の確保・マスクの着用・手洗い・うがいの徹底を行った上で、

①身体的距離確保については、1mを目安に学級内で最大限の間隔を取ることを。

②感染リスクの高い教科活動については、適切な感染対策を行った上で実施となっている。

◎音楽については、「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」は「感染症対策を講じてもおお感染のリスクが高い学習活動」に挙げられ、「レベル1地域では、換気・身体的距離の確保や手洗いなどの感染症対策を行った上で実施する事を検討する。その際にはレベル2地域における留意事項を可能な範囲で参照する。となっている。

レベル2地域における留意事項は、児童生徒の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」については可能なものは避け、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなどして実施する。この場合についても、合唱等については特にリスクが高いことから、実施については慎重に検討する。とある。

生徒みなさんへ

みなさん、学芸発表会を・合唱コンクールをととても楽しみにしていたことと思います。行手中止が続く中でのまたの中止で本当にごめんなさい。

しかし、状況を把握し判断をすること、感染者がでないよう・学校がクラスター(感染拡大)の場所にならないよう・休校にならないようにすることも学校(校長・教職員)の仕事です。現に先生方はこういった状況にならないよう、朝早く出勤し検温や部活終了後も消毒作業をしてくださっています。

なんとか実施できないか色々考えましたが、本当に皆さんのことを考えるのであれば、中止にすることが最善の方法であると判断をしました。